

会 議 録

会議名 (附属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和 2 年度第 3 回 A 部会		
事務局 (担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和 2 年 10 月 29 日(木) 午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分		
開催場所	ウェブ会議システムにより開催 (傍聴場所:川西市役所 5 階 501 会議室)		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、鈴木光義、加門文男、乾美由紀、三善知子、 名木田絢子	
	その他		
	事務局	総合政策部参画協働課 副部長兼課長、課長補佐、 同課主任 1 名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1 人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第	<p style="text-align: center;">1 開 会</p> <p style="text-align: center;">2 議 事 A 部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り 組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="text-align: center;">3 閉 会</p>		

1 開 会

○事務局より

提言書作成について

- ・12月の全体会での提言書(案)の発表に向けて、ある程度要素を出して頂きたい。
- ・11月の部会では、今までの議論の中で見えてきた課題など、ポイントごとに整理できるような議論をお願いしたい。

2 議 事

A部会テーマ

「(地域・市民活動に対して、)

やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

○藤本部長より

本日は、提言書作成に向けて、次回のA部会(11/30)で資料をまとめなければならないので、それまでにワークショップの積み重ねによる事例を集める。ワークショップの対象団体、模擬ワークショップでの課題「自治会加入のお得感」のアイデア出し、トラップカードの内容イメージなど、皆さんいろいろ意見を出していただきたい。

・本日の進行について

(1)外部ワークショップ対象グループ候補

候補

①多田コミの防災士会

②北陵コミ 青少年育成推進委員会 「Come on 北陵小学校」

→学校の先生へのボランティア

→コロナの影響でイベントが中止になり立ち上げた

③市民活動センターの紹介で検討

※候補は、部会長が本日欠席の方とも話し合っただけで決定したいと思う。

(2)模擬ワークショップでの課題「自治会加入のお得感」について

- ・活動してもらう人の気持ちを湧き立たせられるか、カードを使って魅力ある展開ができれば良いと思う。

- ・若者に対してのお得感をカードに盛り込めばよいのではないか。
- ・前回模擬ワークショップでのお得感で検討すると、自治会の活動パターンを変えないと若い世代を引き込むのは無理ではないか。
- ・こども会と自治会の状況は似ているので発言するが、私は、こども会の総務をしていて自治会の加入率の低下は影響を感じる。こども会のメンバーは、約80名。総務は6名で運営している。自治会の加入率が低下すると、自治会からの補助金額が減るので今までどおりのイベントはできない。そうすると、母親たちの負担が大きくなるので、イベントをやめるしかない。・・・協力者が減る。という悪循環になっている。なので、現在のこども会では、イベントの見せ方を変える方法で対応しており、内容も比重を考えて誰もが参加できて楽しめるものにした。
- ・北陵地域では、自治会加入率 42～43%。こども会のメンバーは約10名。こども会の予算は、(バスの遠足に)30万。老人会はメンバー150名、予算10万である。これは、こども会の予算30万との差が激しいので不満があがる。(自治会離れの原因)
- ・自治会活動も、コロナの影響をきっかけに自治会活動の内容を変える方向にしてはどうか。
- ・大和自治会では、コロナの影響をきっかけにクッキングをやめようとなった。
- ・多田東地域では、毎年恒例のイベントで仕方なくやっていたものが中止となり、自治会の執行部の考えはわからないがイベントを開催しなくてもまわっていくのだと感じた。
- ・小学校の行事では、自然学校での泊りの体験ができなくなって、学校側で山でのキャンプやピザ窯を造ること、裏山に登るなどしている。また、小学校の脇には「台場クヌギ」があるなど地元に戻ってきた感じがして資源の再発見、再利用が出来ている感じがする。
- ・今までは、「台場クヌギ」はハチの巣をつくるので邪魔と思っていた。
- ・小学校の先生たちの知恵として、コロナ禍でのイベントを、地元で出来る事として再発掘している。コロナの影響で、地域の力をためられている感じがした。
- ・大学では、地域の博物館において「町おこし」をしている。それで感じることは、観光資源を発見するのではなく、昔ここで「何をしていたか」を専門家から聞くのではなく、地元の昔から住んでいる方から聞いて「味わう」のはおもしろい。お年寄りの方の「出番ですよ」になるのではないかと思う。
- ・「町歩き」は、若い方々が自分の地域を知るきっかけになる。
- ・加茂の地域では『地域の歴史を知るハイキング』という、昔からの住人に「昔ここに何かあったよね」と教えてもらいながら歩くイベントがある。
- ・地域の資源を知ることは、大切なことで、昔からあることである。自治会の役員は地元のことをよく知っているので自治会加入のお得感になると思う。
- ・回覧板の個人情報に気になる。
- ・班で回覧板をまわしている。用紙の一覧に行事の参加希望者は個人情報を記入する。ものによっては年齢も記入しなくてはならない。最後の人に全部知られてしまうので不満の声があるが、自治会員の年齢層が高いので紙ベースで回覧している。
- ・回覧でまわす行事の申し込みは、別紙に必要事項を記入して班長にわたすので個人情報は他者にもれないようにしている。
- ・違う地区は、回覧板はデータ化してメールかLINEを活用している。
- ・募金については、必ず手渡ししている。

(3) トラップカードの内容イメージ

- ・同じような仲間を集めるためのカードにしてはどうか。

- ・ポイントを絞った方がやりやすい。
 - ・刺激的な内容を盛り込んでどうか。
 - ・すぐに活動してほしいので、トラップカードの裏面にインパクトをつけたい。今改善しないと 2025 年には、自治会を運営する人がいなくなるかもしれないという危機意識をもってもらいたい。
 - ・A 部会のテーマは「（地域・市民活動に対して、）やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」であるので、厳しい言葉で呼びかけても良いと思う。
- ・従来からの自治会会員は口出さないことを条件に、若い世代の方々に 5 年後、10 年後の改革をまかせてみてどうか。
 - ・（外部のワークショップ対象グループとして多田コミュニティ協議会の防災士会が決定したことをふまえて）
 - ・多田の防災士は男性 2 名、女性 4 名。働き盛りの年齢、前向きなアイデアを出す方々で、このような方々（ターゲットは若い世代）を第二、第三と引き出したい。

(4) トラップカード作りの考察

- ・防災士を増やすよりも、地域の防災を考える人達を増やすような内容にする。
- ・防災士の方々に、防災士になるきっかけや、自分達のような方々を増やすためのトラップカードの裏表面を書いて欲しいと説明してはどうか。

(5) ワークショップ開催予定

- ・勉強会的なワークショップを行う。
 - ・各ワークショップ、部会委員 3 名ずつぐらいで出向けたら OK。
 - ・外部のワークショップ第 1 弾は、多田コミュニティ協議会 防災士会（4～5 名）。
- 日 程：令和 2 年 11 月 28 日（土）14：00～16：00 予定
- 場 所：多田コミュニティ会館（多田公民館裏側）

3 閉 会

事務局にて進行。

○事務局

次回、A 部会の開催については、11 月 30 日の予定です。

12 月の全体会の日程は調整中です。